

石炭港若松からSLが去る



若松・久岐の浜広場に展示されている貨物用蒸気機関車 9600 型 19633 号。石炭搬送で若松近代化に貢献した。

JR若松駅横の久岐の浜広場に鎮座する蒸気機関車96000型(愛称クンロク)の19633号。大正から昭和の時代、筑豊炭田の石炭を若松港に運び、国内外に積み出す大きな役割を担った。廃車後の平成元年(1989)から、近代若松の発展を象徴するものとしてこの地に展示されているが、その象徴が筑豊の地に去ることがこのほど決まった。

クンロクは大正2年(1913)、日本の地形に合わせたコンパクトな造りながらパワーのある初めての完全国産で開発された貨物用蒸気機関車。当時770両生産され、若松の19633号は同6年(1917)、神戸市の川崎造船所(現川崎重工業)により134番目のクンロクとして製造された。全長約16・6m、幅2・6m、高さ3・8mと機関車としては小型ながら928馬力の強力な推進力を持ち、全国各地の小規模な炭鉱にも出入りでき、使い勝手が良いことから

各方面に喜ばれた。ちなみに19633号は完成後、長野、富山県、さらに熊本、鳥栖機関区を経て昭和25年(1950)、若松機関区に転属。同48年(1973)3月14日、若松で廃車になるまで実に56年間、走り続けた距離は地球70周分の282万5836kmに及んだ。

石炭産業支えたSL「メンベイ」の会社

九州鉄道記念館(門司区)の宇都宮照信副館長は「クンロクは石炭産を支え、市民になじみがあり、北九州で一番活躍した機関車といえます」と言う。その廃車は、石炭から石油へのエネルギー革命による炭鉱閉山、デューゼル、電車などへの転換による。19633号は昭和48年の廃車の際、所有者の国鉄は解体を検討していたが、当時の谷伍平・北九州市長が「子ども達にこの素晴らしい歴史を伝えるため残したい」と強く希望。同年、市に無償貸与した。市は機関車を白山1丁目公園に移して市民

に保存への協力を仰ぎ有志、ライオンズクラブなどが守る会を作つて清掃、機器の手入れ、塗装などに協力した。現在の久岐の浜広場での展示は平成元年(1989)から。だがその後、ボランティア会員の高齢化等によって活動は弱まり平成10年代後半、守る会自体も解散のやむなきに至り、荒れ放題の現状に至った。市は、解体するにしても1000万円以上の費用がかかることから、昨年、機関車の引き取り手を公募。そこに、筑豊の一角・添田町に生産拠点を持つ辛子明太子製造販売の会社山口油屋福太郎が「わが社が引取りたい」と名乗りを挙げた。

ところで、炭鉱と若松、さらに石炭鉄道の関係とは。筑豊からは明治10〜20年代、石炭は五平太船(川ひらた)に積んで遠賀川を下り、遠賀郡芦屋町や若松港まで運んでいたが川舟では1隻の積載量6トで時間も要するとして炭鉱経営者たちが鉄道敷設を計画。明治22年

(1889)、筑豊興業鉄道会社を創設し2年後、鞍手郡直方町(現直方市)―遠賀郡若松町(現若松区)間に開業させた。九州では門司―熊本間を走らせた九州鉄道に次ぐ二つ目の鉄道誕生だった。

鉄道路線先を遠賀川河口の芦屋ではなく若松にしたのは、流域の五平太船頭たちにとって石炭輸送を鉄道に奪われる死活問題だったからで大きな反対運動が起きた。このため遠賀川の途



現役時代の9600型19633号蒸気機関車(左側) <九州鉄道記念館提供>

中から堀川沿いに、さらには洞海湾沿いのルートに線路を敷設した。それは結果として、若松に多大な発展をもたらした。開通当初、若松駅には年間約3万ト、対して五平太船では約88万トの着炭量だったのが、ピク時の昭和15年(1940)には若松駅に1日48本2300両の貨物車で35000トの石炭が降ろされた。日本の着炭量に対して五平太船での輸送は前年に姿を消したが、石炭積出量の増加により船舶が急増、石炭棧橋も整備されるなど近代化が進んだ。

添田への移転は 来年春に

山口油屋福太郎が機関車引取りを希望したのは、添田町も炭鉱の町として若松とつながりがあるため、同社広報担当者は

「今、新型コロナウイルス蔓延事で移設時期を明確には言えませんが来年早い時期になりそう。その時はぜひ地元を始め多くの人に見にきていただきたい」と話す。

若松の歴史に詳しい旧古河興業若松ビルの若宮幸一館長は、現在まで永年放置され痛みも激しい19633号の現状に「せめて屋根ぐらい付けて保護していい良かったのではないかと管理若松市の姿勢に苦言を呈し、また「若松にとって、市民にとって非常になじみが深く、貴重な鉄道産業遺産として往時の活躍を語り継がなければならぬものだった。添田町には大峰、峰地炭鉱もありクンロクとの縁も深い。今後に期待します」と関心を寄せている。

シニアスタッフ 村田和夫

◆北九州歴史文化塾◆

若松からSLが去る

JR若松駅横の広場はかつての国鉄若松機関区。今は「久岐の浜広場」として開放され、老朽化し痛みが激しい蒸気機関車が1台、展示されている。貨物専用として大正6年(1917)に誕生して実に103年。後年は筑豊の石炭をこの地から全国に、いや世界に搬出する役割の一端を担い、若松の産業近代化に貢献した。来年、かつて走っていた筑豊の地に移る。その姿などから若松と筑豊、鉄道の歴史を学びます。

時間	行程
10:30	JR若松駅集合 蒸気機関車クンロク見学 若松駅周辺歴史ウォーキング
12:00	JR若松駅解散

開催日時 9月28日(月) 10:30~12:00

集合場所 JR若松駅

講師 北九州シニア応援団スタッフ

受講料 SAKURA 倶楽部会員 500円
一般 1,000円

【参加お申し込み・お問い合わせ】

さくら編集部 ☎ 093-965-6080